

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370104905		
法人名	社会福祉法人真光会		
事業所名	グループホーム出水		
所在地	熊本市中央区国府2丁目6番91号		
自己評価作成日	平成26年10月23日	評価結果市町村受理日	平成27年 1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①認知症の方の尊厳を守り、認知症専門施設としての意識を持って、全職員が専門的なケアができるようにします。②居宅や地域関係機関とのネットワークづくりに努め、開かれたグループホームづくりを目指します。③地域に貢献して、地域とのつながりのあるグループホームづくりを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、認知症介護の専門施設として、その社会的役割の大きさを十分認識しています。地域との交流を大切に、地域貢献のできるグループホーム作りを目指して頑張っています。現在、町内で準備が進められている地域サロンの立ち上げにも参加しており、また毎月第4木曜日には、地域住民の集まりにも顔を出しています。マッサージ師を同行したり、参加者のおやつを用意したりと、交流を深めており、そこでは介護予防などの情報発信に取り組んでいます。また、管理者の話では、町内会長がとても協力的で理解があると、感謝の言葉もありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念である「三つの和」とグループホームの基本方針と四つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域密着・地域との連携」を事業所内に掲示し、職員全員で周知徹底して実践に努めている。	法人の基本理念、グループホームの基本方針と4つの目標は、玄関ホールに掲示しており、誰でも見れるようになっている。毎月のグループホーム会議では、理念の共有に取り組みしており、今年度の目標も理念に基づいたものとなっている。その達成状況についても、毎月チェックを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、回覧板や運営推進会議より地域の情報を得ている。恒例の一斉清掃・校区運動会・公民館行事に参加している。また地域幼稚園とも交流を図り、ホール壁面を幼稚園に開放している。	自治会にも入会しており、日頃から地域の一員として交流を行っている。恒例の一斉清掃では利用者も2名参加しており、また校区の運動会や公民館開設記念餅つき大会などへも、利用者と一緒に参加している。また、地域の幼稚園とも、長きにわたって交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症勉強会・研修発表会などの結果を、家族会や運営推進会議などで報告し、認知症の把握や支援法について普及を図っている。また地域サロン立ち上げや活動に参加協力したり、毎月の地域住民の集まりに参加して、介護予防等の情報を提供している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開催してグループホームでの活動や情報を報告して、ご意見や評価を受けている。またその結果をグループホーム会議で、職員と共有している。	運営推進会議は偶数月の第3金曜日の午前中に開かれている。メンバーは、自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員、利用者の家族となっている。会議では、利用者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見やアドバイスを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	熊本市主催の集団指導や介護支援相談員を受け入れたり、グループホーム連絡協議会に参加して、必要な情報を収集し、指導を受けている。またまた介護支援相談員意見交換会にも出席して、他のグループホームとの情報交換も行っている。	制度変更に伴う説明会や集団指導、介護支援相談員の受け入れなど、市が行う取り組みには、積極的に協力している。また、高齢福祉課が窓口となっている介護支援相談員意見交換会にも出席し、他のグループホームとの情報交換も行っている。	

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、日頃から拘束をしない対応に職員一同努め、ご家族にも理解を求めている。また年に1回グループホーム合同勉強会を行い、理解を深めている。	身体拘束マニュアルを作成しており、対象となる具体的な行為やその弊害について学んでいる。利用者に気になる言動があるような場合には、家族にも連絡をし、理解を得たうえで、適切な対応を取るようにしている。また年に1回は、同法人の3事業所で合同勉強会を行っており、グレーゾーンにはどのようなものがあるか、あるいは困難事例の対応について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回グループホーム合同勉強会を行い、何が虐待にあたるか、どう対応したらいいのか、知識・理解を深めている。また不適切なケアをしていないか、常に自分を振り返るように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度に関する研修会に参加し、職員間で情報を共有している。必要な方には、地域包括支援センター等の窓口を紹介するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にわかりやすく説明し、納得していたうえで、署名・捺印にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご希望・ご意見が出しやすい雰囲気づくりや良好な関係づくりに努めている。介護支援相談員を通しての利用者の意見も受け入れて、対応に反映させるように努めている。また家族会でご家族に意見書の要旨を配布して、ホール内に意見箱を設置して、自由に発言していただくようにしている。第三者苦情受付窓口も設置し、対応している。	事業所では、年に3回、母の日、敬老会、クリスマス会と家族会を開催している。その際に意見用紙を配布し、自由に意見箱に投函してもらうようにしている。また、衣替えの時期や定期受診、おたより、残葉が一週間分になった場合などに家族との連絡を取っている。その際にも、「意見や要望があれば、忌憚なく言ってください」と声かけを行っている。	意見箱への投函は無いということですが、本音はなかなか言いにくいという家族の心情も考慮し、今後も謙虚に耳を傾ける姿勢を続けて欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回グループホーム会議を開いて、職員同士の意見交換会を行い、それ以外にも随時聞く機会を設けて、改善すべき点は改善している。	毎月のグループホーム会議では、意見や提案を聞く機会を設けている。その場で発言が無い場合でも、随時対応するようにしている。これまで、日誌類の簡素化を図ったり、催事のイス・テーブルの備えをしたり、ゴミ捨て場に電灯を取りつけたりしている。	

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シート・OJT計画書の作成により取組サポートしている。現場の勤務実態・努力・実績・悩み等を観察したり、日誌・各種報告書・直接面接などで把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修や職種別・職位別等の職員研修への参加により、研鑽に努めるように薦めている。法人内研修では、年度ごとにテーマを定めた研究を推進し、年2回発表を行っている。また外部研修参加者には、グループホーム会議の中で時間を取り、職員イン間で情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回グループホーム連絡協議会に参加して、勉強会や情報交換等を行っている。また法人内でのグループホーム合同勉強会も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、本人に関する情報把握に努めている。またご家族やケアマネジャーと連携して、安心して生活ができるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との面接時に立ち会っていただき、情報を得ている。またいつでもご家族の相談に応じている。得た情報は職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望される場合、本人・ご家族が何を求められているのか、本人に何が必要か、本人を十分観察してしっかり把握してケアプランを作成して、介護支援に生かすようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話・利用者間との会話を大切にして、その人に合った楽しみや話題づくりを心掛けている。また個人の能力を発揮してもらい、お互いに思いあう関係づくりに努めている。		

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどのご家族が頻回に来所されている。情報提供を密に行うことで、ご家族との信頼関係を築いている。また病院への通院や行事参加・家族会参加への協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム出水の特色として、ご家族の面会や友人・知人の来所、デイサービス利用者との交流を歓迎している。居室には、使い慣れた調度などを置いてもらうようにしている。	今年の敬老会も全家族が出席して、和やかなうちに行われ、午後の家族会では、家族同士で介護技術の演習なども行っている。事業所には、デイサービス利用者の訪問がある他、お友達が2人連れで面会に来られる利用者もおられるようである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事(調理・洗濯物干し等)、レクリエーション等、日常生活の中で助け合う場面づくりを心掛け、利用者同士が思い合える関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況の応じて連絡を取ったり、必要に応じて臨機応変な対応をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の気持ちを尊重している。困難な場合も、本人の今の状態と日々のかかわりの中での情報をもとに、以降の把握に努めている。	基本は表情を見ながら、本人の気持ちを尊重するのが一番であるとのことである。日々の係わりの中で気付いたことがあれば、個人記録に記載し、また職員が共有出来るように送り簿にも記載している。その他、常に目配り・気配りを怠らないようにしている。職員の聞き取りからは、笑顔で優しいトーンで接することを心掛け、利用者の表情や顔色などの変化を見逃さないようにしているようである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族・ケアマネジャーから情報を集め、職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の言動の様子やご家族に希望、その変化を注意深く観察すると同時に、生活リハビリを中心に、個人の力を発揮できる場面の提供に努めている。		

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族・職員間でのサービス担当者会議を開き、意見・希望を取り入れ、主治医の意見も反映している。また状況変化に伴い、グループホーム会議での検討やその都度ミニ多リングを行い、現状に即した計画を作成している。	介護計画は、本人・家族・職員でサービス担当者会議を開き、それぞれの意見や希望を確認した上で、主治医の意見も反映させて作成している。事業所の場合、担当者会議には全家族が参加している。状況の変化に際しては、グループホーム会議やモニタリングを行い、現状に即した計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々に記録は十分に行っている。情報は職員間の申し送りで共有し、必要に応じて話し合いを行い、それを生かしたケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームが衣・食・住の場、レクリエーションの場、機能訓練の場、学びの場、作業の場、憩いの役割を果たすため、個性を大切に柔軟に対応するように努めている。ご家族にも協力を呼びかけ、本人の思いに添えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開催し、地域の活動には積極的に参加させていただき、協力と支援を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の観察で早期発見に努め、協力医院より何かあればすぐに訪問診察をお願いしている。またご家族の希望を聞き、適切な医療を受けられるように支援している。別にかかりつけ医がある場合は、その医療機関と連携を取るようになっている。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医受診、専門医受診、どちらも基本的には家族の対応となっている。また、毎日の生活の中で、着脱時や入浴時など、体に異常がないか、目配り気配りを行い、早期発見、早期治療に努めている。口腔外科や認知症の専門医を定期受診している利用者もそれぞれ3名おられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所にも准看護師がおり、法人の看護師と連携を取りながら、全般的な保健計画や日常の健康管理に努めている。		

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と密に連携を取り合い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針をご家族に十分説明して、納得されたうえで、署名・捺印をいただき同意いただいている。また重度化した場合の対応は、状況に応じて行う。	看取りは行っておらず、重度化した場合の方針を十分説明した上で、同意書を取り交わしている。緊急性がある場合には、主治医の意見や適切な病院の紹介も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で救急法を勉強している。また緊急時は対応マニュアルに沿って対応している。事業所内にAEDも備え、とっさの場合対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、指導を受けている。また毎月のグループホーム会議の中で1名選び、夜間消防訓練として初期消火までの動きを行い職員間での評価をしている。地域には、運営推進会議委員の一人は町内消防団会長を兼務されており、協力をお願いしている。	政令市移行後は、管轄消防署が変わり、若干の変更はあるようですが、指導を受けながら、年2回の自主消防避難訓練を行っている。また、毎月のグループホーム会議では、職員を一人指名した上で、夜間を想定して初期消化までの動きの確認を行っている。非常時の備蓄については、水を一人3リットル、カセットコンロ、衣類などの備えを行っている。	災害はいつ、どのようにして起こるかわかりません。また、訓練以上の力は発揮出来ないと、防災の専門家は言っています。訓練の重要性を再認識して、取り組んでほしいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけないように、言葉使いや態度に注意している。また本人の思いを否定しないようにし、個室にも無断で入らないように心掛けている。	言葉使いや態度に注意したケアに取り組んでいる。本人の思いを否定しないこと、つまりその人らしい、本人がして欲しいことを支援することが、人格の尊重に繋がるということであった。また、利用者が、自分の家族だったらこんな対応をするだろうかと考えることの大切さについても、管理者からお話があった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせて、日々自己選択・決定ができるような場面を設定している。また言語・非言語のコミュニケーションを密にして、本人の意向を把握するように努めている。		

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重して、職員側の都合にならないように努めている。また日常生活の中でそれぞれに選ぶ場面を提供し、自己決定できる場面づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の着たい衣類・好みの衣料を着用してもらい、清潔感のあるその人らしいおしゃれが保持できるように努めている。またご家族と相談しながら出張美容のサービスを利用し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりを相談したり、買い物と一緒に went たりしている。また調理や片付け等できることを見つけながら、一緒に行っている。利用者自ら進んで行ってくださる。個々の利用者の飲食に関する嗜好に伝えるよう努めている。	食事が楽しみなものになるよう、一人一人の好みや力を生かした支援に取り組んでいる。現在、2名の利用者が買い出しに同行しておられ、そのほかにも調理や今日の献立書きや配膳、片付けなどを頑張っておられる。訪問した時も、利用者からデザートを運んでいただき、食事風景もとても和やかで、ほぼ全員の方が完食であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭料理を基本としている。旬のものを大切に、栄養バランスを考えた献立を作成し、一人ひとりの食事量・水分量をチェック表に記入し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内清掃に努めている。その間口腔内を観察して専門ケアが必要な場合は、ご家族に相談をして了解を得て上で、訪問歯科診療を受けてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるように支援している。夜間尿取りパットを使用している利用者も日中外したり、その人の状態に合わせて調整し、気持ちよさを体感してもらっている。基本的にオムツは使用していない。	見守りの方が1名で、その他の利用者は一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。時間によるものや動き、トイレを探す、立ち上がろうとする、そわそわするなど、固有のサインがあるとのことである。また夜間は尿取りパットを使用している方も、日中は出来るだけ外すよう心掛け、トイレでの排泄を支援している。	

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等の繊維の多い食材を取り入れた献立やおやつに配慮している。また毎日の体操や家事仕事等の活動に努め、水分を多く取ってもらい、時には牛乳を飲んでもらったりして、できるだけ下剤に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の生活習慣や希望に合わせて無理強いないせず、ゆっくりとくつろいだ気持ちで入浴ができるように支援している。	本人の生活習慣や希望に合わせた支援をおこなっている。入浴回数は、夏は週3回、冬は週に2回を目安に支援している。楽しく入浴してもらうよう、ゆず湯やしょうぶ湯の他に入浴剤の使用もおこなっている。職員の話では、脱衣所の温度調整やシャワーの温度確認、転倒防止など、一つ一つ動作を確認しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠支援のために、日中は家事を中心とした生活リハビリに努めている。また個人の睡眠パターンを把握し、それぞれに合った生活リズムの維持を意識的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が常時服薬情報に留意しており、医師の指示のもと服薬を行い、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を中心に制作活動や唱歌等、一人ひとりの好みや能力に応じた場面づくりに努めている。また季節の行事・習慣等を大切に、ご家族や地域の方の力を借りながら楽しんでもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地域行事の参加・買い物・散歩・ドライブ等、楽しみを見つけて計画し支援している。またご家族との外出なども支援している。	ふれあい通り祭りや公民館行事、校区の運動会、清掃奉仕活動など、地域の行事には出来るだけ参加できるよう支援している。また、買い物や散歩、ドライブなどの支援にも、積極的に取り組んでいる。	

グループホーム出水

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名が小遣いを持っており、能力に応じた金銭管理の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、プライバシーの庇護には配慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは解放感あふれ吹き抜けにし、床暖房も完備している。天井には扇風機が回り、換気とソフトで自然な温度コントロールをしている。またテラスでくつろぐことができる。壁面には、利用者と共同で作成した作品を張り季節を感じてもらっている。別の壁面には、行事等の写真を引き伸ばし、利用者やご家族に楽しんでもらっている。	玄関からリビングに繋がる廊下は、とてもゆったりとしており、利用者が集まれるリビングも天井が高く設計されており、とても明るく穏やかな空間となっている。寒い時期には、足・腰が冷えないように床暖房も設備されている。その他、室内環境にも配慮しているとのことで、加湿空気清浄機を設置している。壁面には、利用者の写真や作品などを掲示し、居心地よく生活できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に応接セットを設けている。また玄関内側にも長椅子を置き、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談して、これまで慣れ親しんだ家具や生活用品を持ち込み使用し、安心して落ち着いて過ごされるようにしている。本人の好みで、行事等の写真を掲示している。	居室の基本的な設備は、空調機器と洗面台となっている。ベッド、家具、生活用品などについては、出来るだけ使い慣れたものを持ってきてもらい、落ち着いて過ごしてもらうよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には、写真付きの名前を掲示したり、トイレと表示することで、それぞれが場所を確認できるようにしている。		